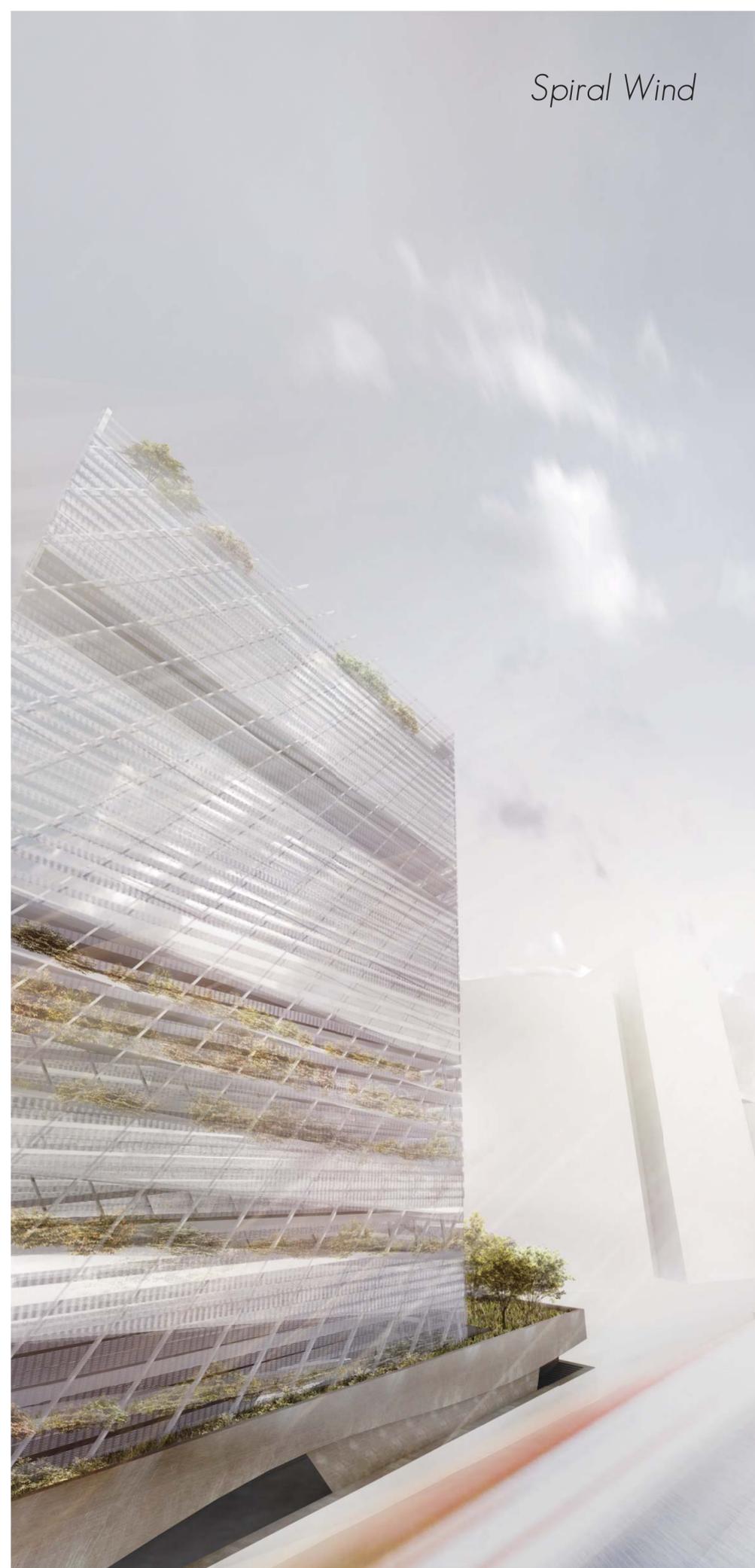


Spiral Wind



未来都市 —経済都市から文化都市へ—

2020年にオリンピックの開催を控えた東京。21世紀の日本の都市像は、成長からシュリンキングのフェーズに入ってきているが、世界的にはグローバル化やアジア都市の成長により、都市間競争が激化している。これまで経済的な発展を遂げてきた東京だが、文化的には他の代表的な世界都市と比べて見劣りしているという特徴がある。東京が成長していくために必要なのは、文化都市としての成長戦略だ。



「都市間競争はいよいよ激しくなっています。どの都市も、ほかの都市並みのものを提供しなくてはならない。といって個人の人や各都市がグローバルでなければならないとか、世界的な視野をもたなければならないというわけではありません。近隣で働き、1つの仕事をこなすだけの人もたくさんいます。そういうことが、社会を社会たらしめているのです。ただし、国際級の都市を目指すなら、まずファミリーフレンドリー（家族に優しい）な都市を目指すべき、というのが私のかねてよりの持論です。ファミリーフレンドリーであるということは、それだけ治安が良く、文化施設も充実しているということです。」
Michael Bloomberg 元・ニューヨーク市長

街と子ども

そのために都心とはあらゆる世代の人々が楽しむための場所であるべきだ。この銀座・有楽町地域は若者向けのショップや年配向けの老舗は充実しているが、子どもが楽しめる場所が極めて限られているということに気付かされる。しかし、これはこの地域だけではなく、都心全般の問題でもある。逆に言えば、この街に子どものための場所があれば、全世代が楽しむことのできる街になり、魅力は格段に増すだろう。



東京の建築

建築は複合した機能を包括するための箱で、その担う役割は、どうやって種々ある機能同士を接続するかにある。そこで、二重螺旋というシステムで機能を包む建築を提案する。二重螺旋はシークエンスでもあるし、機能の一部でもある。すなわち、螺旋を巡れば、建築を一巡することになり、都市を体験することができる。

□ diagram

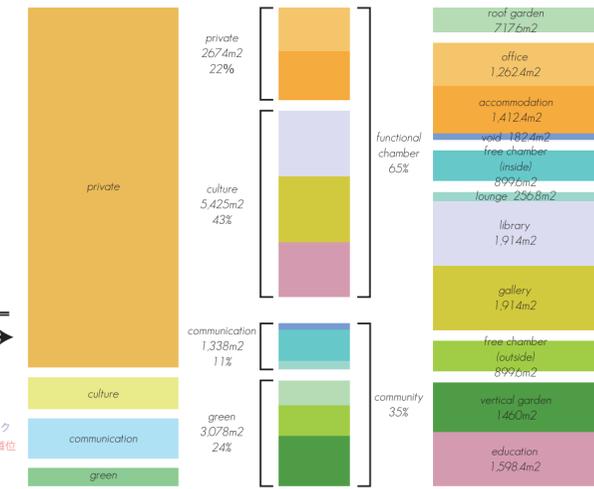
相対的な都市 / 想定する 2020 年

世界都市ランキングによると、東京は世界で四番目に魅力的な都市で、経済的な発展はしているが、文化的な魅力に欠けているという。東京は、文化的な都市へと生まれ変わる必要がある。必要なことはハードの整備と適切な運用システムを計画し、実行していくことだ。

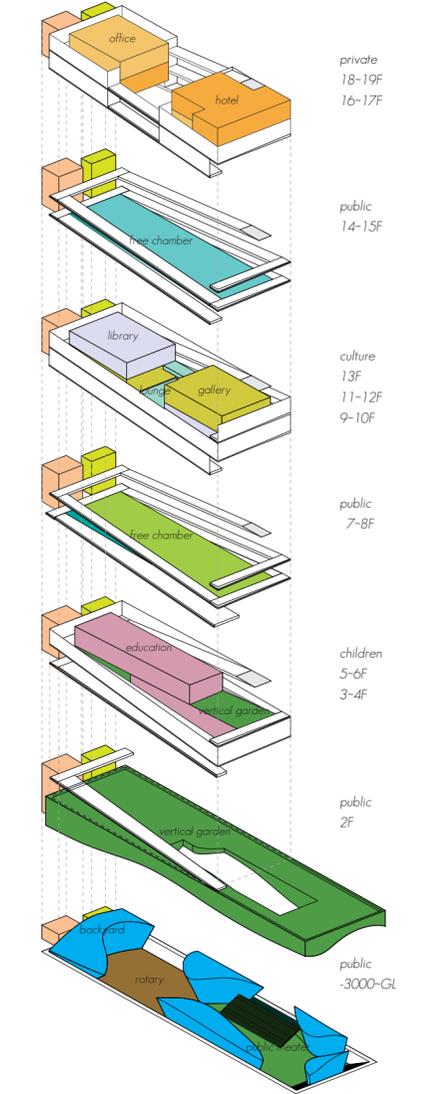


従来の機能と文化特区構想に向けた機能の配分

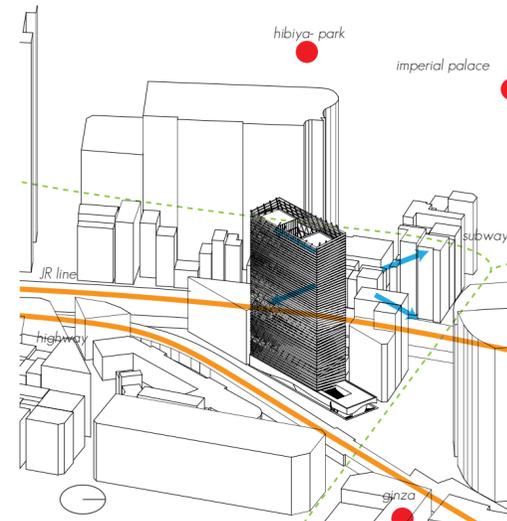
一般的なビルはほとんどが閉鎖的な機能で埋め尽くされている。しかし、それでは都市全体としての文化的な発展は望めないで、ここではプログラムを再検討して、文化の中心として相応しいよう、機能を再配分する。



□ axonometric



外殻による敷地の捉え方



外殻によるパッケージングとその機能

